

課題名 知的障害者の生涯学習支援に関する研究 —— オープンカレッジの試みを通して ——

研究代表者名 川住 隆一 (人間発達臨床科学講座)

研究組織等 田中 真理 (人間発達臨床科学講座)
加藤 守道 (人間形成論講座)
市毛 哲夫 (成人継続教育論講座)
石井山 竜平 (成人継続教育論講座)
細川 徹 (人間発達臨床科学講座)
杉山 章 (人間発達研究コース)
鈴木 恵太 (人間発達研究コース)
滝吉 美知香 (人間発達研究コース)
笹原 未来 (人間発達研究コース)
岡野 智 (人間発達研究コース)
野崎 義和 (人間発達研究コース)
横田 晋務 (人間発達研究コース)
新谷 千尋 (人間発達研究コース)
新村 享子 (人間発達研究コース)

研究目的

近年、わが国の一部の大学においては、地域社会に対する貢献の一環として、公開講座(オープンカレッジ)を通して知的障害者の生涯学習支援が試みられるようになってきている。この取り組みの一般的ねらいとしては第1に、知的障害者が学習を通して社会人としての生活や個人の生活が豊かになること、第2に、当事者同士の交流が促され友人関係が広がることがあげられている。われわれもこのような取り組みの重要性を認識し、一昨年度より「杜のまなびや」という講座名での取り組みを開始した(川住他, 2007, 2008; 大内他, 2007; 鈴木他, 2007; 杉山他, 2007)。

本講座においてわれわれは、上述のねらいの他に独自の観点として、知的障害者が大学で学ぶことを重視する、すなわち、講座を通して彼らが学ぶことの楽しみを見出すことや新たな知識を得ることだけではなく、大学生と知識・体験を共有し討論の中から様々な事に気付くこと、また教員・学生・院生が専門性を問われる場面に立ち会うことも重視したいと考える。そこで本研究においては、(1)知的障害者の学習ニーズを探りつつ、東北大学大学院教育学研究科の専門性を生かしたオープンカレッジの学習プログラム内容と援助方略を昨年に引き続き探ること、(2)講座に参加した学習者(知的障害者)と共同学習者(学部学生)の意識の変容について探ることを目的とする。

東北大学 オープンカレッジ
もり
『杜のまなびや』

東北大学 大学院 教育学 研究科

東北大学 オープンカレッジ
『杜のまなびや』のご案内

東北大学で 大学生と一緒に 学ぼう！
大学の先生の 講義を 聞いたり、大学生と 話し合いを したりします。
いろいろなことを 学びたいという人は ぜひ 申し込んでください。

- 日時 第1回 10月18日(土) 13:45~16:00
(最初に 開講式をします。)
- 第2回 11月 8日(土) 10:00~15:00
(昼食は、弁当を もってきて いただいても、
当日 食堂で 注文して いただいても、
どちらでも よいです。)
- 第3回 12月 13日(土) 10:00~12:15
(最後に 閉講式をします。)
- 会場 東北大学 文科系 総合研究棟
(パンフレットの 後ろにある 地図を 見てください。)
- 定員 10名
(先着順です。他に 大学生10名が 参加します。)
- 持ち物 筆記用具(えんぴつ、けしごむ)
- 参加費 無料

<先生方と講義の紹介>

第1回 10月18日(土) 市毛 哲夫 先生
「スポーツのルールについて いろいろ考えてみる」
スポーツ・ルールの成り立ちについて、
いろいろ考えながら、やってみよう。

第2回 11月 8日(土) 石井山 竜平 先生
「自分の生きざまを語る／他者の生きざまを聞く」
同世代の 様々な生きざまにふれながら、
「自分」をとらえ直してみよう。

第3回 12月 13日(土) 加藤 守通 先生
「ことばって なんだろう」
人を動かす ことばの力について 考えよう。

<次のような活動を予定しています>

- ・講義 (先生の 話を 聞いたり、活動したりします。)
- ・話し合い (グループで話し合いをします。)
- ・まとめ (話し合ったことを書いたり、発表したりします。)
- ・アンケート (簡単な質問に、答えていただきます。)

お申込み・ご質問は、
こちらまで、お願いします。

<申込先>
東北大学「杜のまなびや」事務局 川佳 研究室
代表：川佳 隆二
電話：022-795-6145 FAX：022-795-6145

<会場までの地図とバス>

会場
文科系総合研究棟

簡易キャンパスバス停

ロータリー

<バス>
1. [乗車] 1. 盛岡駅より 盛岡駅バス(盛岡駅西) バス乗り場(盛岡駅西) 乗車
(盛岡駅西 乗車) 盛岡駅西 乗車
(盛岡駅西 乗車) 盛岡駅西 乗車
2. 降車(盛岡駅西) 簡易キャンパスバス
※ 徒歩(盛岡駅西) 徒歩

<東北大学「杜のまなびや」事務局 川佳 研究室 >
代表：川佳 隆二
住所：〒980-8506 石巻市 豊城町 10-1-1 川佳 研究室
電話：022-795-6145 FAX：022-795-6145

Fig.1 パンフレット

研究経過

- (1) 研究スタッフは、上記 6 名の教員および発達障害学専攻の 9 名の大学院生である。運営には、主として川住・田中と発達障害学専攻の大学院生が携わり、講座の講師は、加藤・市毛・石井山が務めた。
- (2) 当オープンカレッジの名称はこれまでと同様「東北大学オープンカレッジ『杜のまなびや』」とし、講座は 10 月 18 日（土）、11 月 8 日（土）、12 月 13 日（土）の 3 日間実施した。10 月と 12 月は午後に、11 月は同じ講師により昼食を挟んで午前と午後に行われた。また、10 月は体育館で、11 月と 12 月は教室で行われた。講師および講義題目は、次の通りである。
 - 1 回目（10 月） 市毛講師 「スポーツのルールについて いろいろ考えてみる」
 - 2 回目（11 月） 石井山講師 「自分の生きざまを語る／他者の生きざまを聞く」
 - 3 回目（12 月） 加藤講師 「ことばって なんだろう」
- (3) 講座の対象として、学習者は言葉による会話とひらがなによる読み書きが可能な 18 歳以上の者 10～15 名、共同学習者は本講座に関心のある学部学生・大学院生 10 名程度とすることにした。また、3 回を通して参加可能であることが望ましいとした。パンフレット（Fig.1）を作成した後、昨年の受講者を中心に受講者を募った結果、学習者 12 名（一般・福祉就労者で、4 名は本年度初めての受講）および共同学習者 14 名（教育学研究科大学院生 1 名、教育学部生 12 名、工学部生 1 名）からの参加希望が得られた。
- (4) 研究目的の(2)のため、学習者に対しては事前・事後の面接を実施し、また、各講座受講後の感想を把握するため、各回終了時には出席した学習者・共同学習者全員に対しアンケート調査を実施した。
- (5) 各回とも講義資料を作成した。資料は、講師の原案を踏まえて、講師と運営スタッフが話し合いを重ね、パワーポイント資料へと作り上げていった。また、資料の漢字にはひらがなのルビを付した。授業時には、資料のみならず関連する具体物や映像資料も取り上げられた。また、読み書きが苦手な学習者の横には、運営スタッフが学習支援者として待機した。グループ討論の際には、スタッフが司会役を務めた。
- (6) 各講座の時間は 2 時間（2 回目も午前・午後それぞれ 2 時間）とし、基本的に、a. 講師の話、b. 実技・実習、c. 休憩、d. 受講者同士の討論と発表、e. 講師によるまとめの時間、f. アンケート記入で構成した。実施ごとに映像・音声記録を残し、また、各講座終了後、運営スタッフで若干の省察時間を設けた。講師にもインタビュー調査を行った。
- (7) 面接・調査の実施、および音声記録の文字化は、運営スタッフの院生によって行われた。

研究成果と課題

研究成果として、ここでは3回の講義後に実施されたアンケート調査の結果の一部を取り上げる。この調査では7つの質問が用意され、その1つとして、受講しての感想等を記す自由記述欄が設けられている。この欄には、3回の講義において、学習者のべ32名中23名よりの回答が（一部の人に関してはスタッフによる聞き取り）、共同学習者のべ39名中33名より回答が寄せられている。回答内容は、大きく4つに分類された。すなわち、(1)各回の講義全般に関すること、(2)講義内容に関すること、(3)グループ討論に関すること、(4)その他（オープンカレッジに参加しての感想、希望等）である。Table 1 に回答の一部を掲載した。

ここに記載された内容からも読み取れるように、回答した者全員が、講義内容や討論の展開について肯定的評価（楽しかった、学ぶことが多かった、他者の意見を聞くことができてよかった、次の機会にも参加したい、等）を述べており、講座の内容と進め方は概ね成功したと考える。送迎のために立ち寄った数名の学習者の家族からも、学習者がこのオープンカレッジを有意義に過ごしたことや次回を楽しみにしていることを伺っている。一方、受講者の意識の変容に関しては、ここで検討した結果だけでは明らかではないが、少なくとも、共同学習者として参加した大学生らにとって、それまでの障害者感が大きく揺さぶられる体験をしたり、自分の振る舞いに戸惑いを覚えたのではないかと推測している。この点に関しては、より詳細な分析を行い、別の機会に報告する予定である。なお、講師との事前打ち合わせ、および、事後インタビューの内容については、本誌において杉山らがより詳細な分析を行い、報告している。

Table 1 受講しての感想

<p>(1) 各回の講義全般に関すること</p> <p><1回目> いいべんきょうになりました。からだをうごかしてたのしかったです。(学) * 仲間って大切だなと思いました。(学) 体育館でのびのびと活動できてよかった。(共) **</p> <p><2回目> いろいろなグループと話し合いをやることです。(学)</p> <p><3回目> いろんなべんきょうができたのでよかった。たくさんの方の音がきけたのでよかった。(学) もっと長く聞きたいぐらい、日本の芸能の話がおもしろかったです。(共) 守通先生の伝統芸能に対する思いはすごいと思いました！時間が短く感じました。(共) 加藤先生のお話はユーモアたっぷりでも面白かった。(共)</p>
<p>(2) 講義内容に関すること</p> <p><1回目> 卓球をやりたいかった。でもバスケットボールもやりかった。(学) バドミントンが楽しかったです。(学) スポーツのルールについて、むずかしいことがあったことで、べんきょうになった。(学) ルール以上にスポーツはたとえ下手でも笑ってやれるのが一番いいんだなと感じました。(学) ショートテニスをはじめてだったので、力の加減が難しかった。しかし、普通のテニスより面が手に近い分打ちやすかったと思う。「ルール以上に大切なこと...」という感想が発表の時に出了が、本当に今日は皆、技術面もルール設定も試行錯誤しながら、それを楽しみながらできていたと思う。色々な人と話せてよかった。(共) ルールを話し合いながら変えていって皆が楽しめるようにスポーツができたので、よかったです。(共) 自分たちでルールを決めてスポーツをするのも面白いと思った。(共) 自分たちで決めたルールで競えると与えられたものをやるよりも楽しめることがあるのかもしれないと思った。(共) 実際にやってみたミニバレーボールは、みんなとやれててんやわんやでも楽しかった。でも3連敗でした。(共) ゲームをすることが、特に打ち解けあうことに役立ったと思います。笑顔が見れてよかったです。(共)</p>

<p><2回目> 今日学んだ事を会社の人や家の人に教えたいと思います。(学) 自分の思っていることや、思っていたことを語れる機会になって楽しかった。人の話を聞いているうちに、「自分もそういうことあった」とか「自分とは反対だ」と思ったりできた。(共) 議題が少し抽象的になってしまって、むずかしく感じる時がありました。(共) 自分のことを話すというのは難しいことだと思いました。他の人の話を聞くというのは、自分と違う考えをどんどん聞けるから楽しいんだと感じました。(共)</p> <p><3回目> かとうせんせいのじきょうわ わかるぶふんとわからないぶぶんがありました。(学) ほんばんにもっとやくにたつのでよかった。(学) 「ユーモア」などの人によっては漠然としたイメージの言葉について話すのは少し難しく感じました。(共) 浪曲でうたと語りをその時によって変える、ということは伴奏の三味線もそれに応じてあいのを入れることになるだろう。アドリブであれだけ呼吸が合うのはすごいと思った。(共)</p>
<p>(3)グループ討論に関すること</p> <p><1回目>テニスの感想で、失敗しても楽しめたというのが、とてもうれしい感想だと思った。”スポーツは社会の鏡”というのがなるほど!と思った。(共)</p> <p><2回目>説明する事の難しさ。(学) 他の班の人々の発表を聞くことで考えが広がった。(共) 自分の思っていることや、思っていたことを語れる機会になって楽しかった。人の話を聞いているうちに、「自分もそういうことあった」とか「自分とは反対だ」と思ったりできた。(共) わきあいあいと自由に話すことができ楽しかった。この雰囲気のまま続けていってほしい。(共) 共感すること、新しい考え...、みんなの考えが思い思いに語られる中で、まとまらなくてもいいんだな!と思った。いろいろな人の話を聞きながら、生き生きと語る姿はすてきでした。今日、参加したことによって、たくさん感情やイメージが浮かんで来て、ああ学びだ!と思いました。(共)</p> <p><3回目>自分の班で出てくる意見だけでなく他の班の意見や板書の仕方にも特徴があつて面白いと思う。もっと色々なテーマについて話してみたい。(共) 話をする時、聞く時に今まで特に意識して気を付けていることを今回改めて考え直すことができたので良かったです。(共) 自分のことを話すというのは難しいことだと思いました。他の人の話を聞くというのは、自分と違う考えをどんどん聞けるから楽しいんだと感じました。(共)</p>
<p>(4)その他(オープンカレッジに参加しての感想、希望等)</p> <p><1回目> 友達になれるかな~しばい(心配)でした。だけど友達になりました。(学) いがいにたくさんのお(を)まなべてよかったですおもしろかったです。(学) またらいねんもさんからできたらやりたいです。(学) Sさんが隣に座っていたのですが、筆記用具を貸してくれてうれしかったし、お話もたくさんできて楽しかったです。(共) いろいろな人と触れ合い、少しずつそれぞれの人柄などを知ることができ、楽しかったです。(共) 講義を聞いたり、スポーツをしたり、初めて会った人と話ができ楽しかった。(共) 初めて来られる方がいらっしゃるけど、三回目とも来られる方もいらっしゃいました。いろいろな人と出会いができて、楽しかったです。(共)</p> <p><2回目> またさんかしたいです。(学) ぼくはとちゅうでちこくをしてしまい なんだか2はんのみんなにめいわくをしてしまいました。すこしはんせいしてます。(学) 同じ中学に通ってた人がいてビックリしました。しかも家が近いという事が分かりました。(学) 今日は昼食も一緒に行き、話し合いの際には緊張してなかなか話せない人や違うグループの人とも話す機会が出来たので良かった。(共) 初めて来られる方がいらっしゃるけど、三回目とも来られる方もいらっしゃいました。いろいろな人と出会いができて、楽しかったです。(共)</p> <p><3回目>又とうぼく大学のオープンかれっちにさんかしたいです。スタッフのみなさんさんかおつかれさまでした。(学) 今日ぼくはまたしてもおくれたことをものすごくはんせいしています。(学) 来年も行きたいです。(学) メモを書かなければならないという義務感にとらわれてしまう人もいた気がするので、次回から気を付けなければならない点だと思っています。(共) 3回の授業を通してとても勉強になりました。ありがとうございました。(共) Iさんが、最後の「杜のまなびや」に参加することが出来なかったのが残念でした。体調が悪いというのが、心配でした。(共) 人から学ぶことの大切さを実感しました。(共) 先生がお話をされているときに障がい者の方とどう接したら良いのか分からなかった。「先生の話聞くようにする」のか「一緒に障がい者の方と触れ合っていれば良い」のか分からない状況があった。今回は両方を試してみたが、どちらが良いのか判断がつかなかった。(共) ふだんの授業の時よりも、先生方が親しく(?)感じられた。(共) 杜のまなびやは1年に3回しかありませんが、大学生と障がいの方々との交流できて、とても良かったと感じました。(共)</p>

* (学) : 学習者、** (共) : 共同学習者

今後の課題としては、昨年度に引き続き、学習者と共同学習者の両者にとって学びの喜びに繋がるような講義題目と内容の検討がある。また、数名の受講者が指摘しているように、グループ以外の参加者との交流の機会をいかに設定するかも課題である。さらに、土曜日に休暇が取れずに受講を断念した学習者が複数いるため、開催曜日の検討も必要になった。

文献

川住隆一・田中真理・細川 徹・菊池武剋・李 仁子（2007）知的障害者の生涯学習支援に関する研究—オープンカレッジの試みを通して—。東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報，第7号，91-93.

川住隆一・田中真理・菊池武剋・市毛哲夫・細川 徹・杉山 章・鈴木恵太・中村保和・滝吉美知香・北 洋輔・野崎義和（2008）知的障害者の生涯学習支援に関する研究—オープンカレッジの試みを通して—。東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報，第8号，101-105.

大内将基・杉山 章・廣澤満之・鈴木恵太・北 洋輔・田中真理・川住隆一（2007）知的障害者および学生におけるオープンカレッジの意義—東北大学オープンカレッジ「杜のまなびや」を通して—。東北大学大学院教育学研究科教育ネットワークセンター年報，第7号，13-22.

鈴木恵太・大内将基・廣澤満之・笹原未来・中山奈央・半澤真理・中村保和・川住隆一（2007）オープンカレッジによる知的障害者の生涯学習支援に関する研究（1）—共同学習者からみた意義について—。日本特殊教育学会第45回大会発表論文集，327.

杉山 章・佐藤彩子・北 洋輔・小島未生・榎本泰亮・田中真理（2）—学習者からみた意義について—。日本特殊教育学会第45回大会発表論文集，328.